

# 糟屋子ども発達センター・さくら保育園放課後等デイサービスプログラム

## 【本人支援】

土曜日及び長期休みの療育プログラム(例)

時間	療育内容	発達領域
9:30	送迎・引継ぎ	
10:00	登園 司会等その日の役割決め 出欠確認・健康チェック・スケジュール確認 体操	人間関係・社会性 健康・生活 運動・感覚
10:30	運動系の設定課題(机上学習系の設定課題)	運動・感覚 人間関係・社会性
12:00	昼食	健康・生活
13:00	机上学習系の設定課題(運動系の設定課題)	認知・行動 言語・コミュニケーション
14:30	おやつ・自由遊び 掃除活動	健康・生活
15:30	帰りの会(インタビュー)	人間関係・社会性
16:00	送迎・引継ぎ	

放課後型の療育プログラム(例)

時間	療育内容	発達領域
15:00	送迎・引継ぎ	
15:30	おやつ	
15:45	机上課題・レクリエーション	全領域
	SSTグループ 協同課題・ルールのある遊び	人間関係・社会性
17:00	帰りの会(インタビュー)	人間関係・社会性
	送迎・引継ぎ	

### 健康・生活

#### 【健康状態の維持・改善】

日常的な検温、子どもからの健康状態に関する訴え、子どもの表情やしぐさ、身体の状態のチェックを日々行い子どもの健康状態を把握する。健康状態に変化がある際は常勤医の診察を受け指導を受ける。

日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもが持つ機能を更に発達させながら、子どもに適した身体的、精神的、社会的支援を行う。

#### 【生活習慣や生活リズムの形成】

睡眠、食事、排せつ等の基本的な生活習慣を形成し、健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身に付けられるよう支援する。また気候等に応じて自ら衣服の調節ができるよう支援し、あわせて室温の調節や換気、病気の予防や安全への配慮を行う。

#### 【基本的な生活スキルの獲得】

着替え、排せつ、食事、歯磨きなど基本的な生活技能を身に付けられるよう子どもの発達段階や特性に合わせた支援を行う。

子どもの障害特性にも配慮し、スケジュール提示やパーテーションを活用した刺激の統制による時間や空間の構造化と合せて、子どもが安全に療育を受けられるよう療育室の環境を整える。

#### 【生活におけるマネジメントスキルの育成】

障害の特性や身体部位の状態について理解し、状況に応じて自己の行動や感情を調節したり、他者や環境に対して主体的に働きかけたりして、より良い生活環境を作ることができるよう支援する。自分で自分の生活スケジュールを組み立てる行動を増やせるよう支援する。

### 運動・感覚

#### 【姿勢と運動・動作の基本的技能の向上】

運動遊びや運動系設定課題を通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。

#### 【保有する感覚の活用】

運動遊びや運動系設定課題を通して視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるよう支援する。

#### 【感覚の特性への対応】

感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

### 認知・行動

#### 【認知の特性についての理解と対応】

子ども一人ひとりの認知の特性を理解し、それを踏まえた上で情報を適切に処理できるよう支援する。また、こだわり行動や偏食に対しては、まずは子どもが安心できる支援者との人間関係を基盤に楽しく遊ぶ、楽しく食べることにより結果的に行動のレパトリーや食べられるものを増やせるよう支援する。

#### 【対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得】

運動系設定課題、机上学習系設定改題を通して視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用し、様々な情報を適切に処理できるよう認知機能の発達を促す。取得した情報を有している記憶やイメージと照合し、環境や状況を把握、理解できるようにするとともに、これらの情報を的確な判断や行動につなげられるよう支援する。また、物の機能や属性、形、色、音の変化、手触りの違い、大小、数、重さ、空間、時間等の概念形成を図る。

#### 【行動障害への予防及び対応】

感覚や認知の偏り、こだわり行動への配慮や他者とコミュニケーションすることの楽しさを体験することで行動障害を予防し、適切な行動を褒める(強化する)ことで適応行動を高められるよう支援する。適応行動を高めるための支援においては、段階的なプロンプト(手がかり)提示を意識し、子どもができるだけ少ない手がかりで行動できるよう支援する。

### 言語・コミュニケーション

#### 【コミュニケーションの基礎的能力の向上】

子どもの障害種別や程度、特性、興味関心等に応じて、日常的な挨拶や療育活動を通して話し言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り・サイン、更には絵カード等の代替手段を用いて、やりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的能力を身に付けることができるよう支援する。

#### 【言語の受容と表出】

話し言葉、身振りやサイン、各種文字・記号、絵カード等を用いて相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど受容言語と表出言語を伸ばすことができるよう支援する。

#### 【人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得】

集団遊びを通して場面に応じた言動・対応など人とのかわり方についての学びを含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるよう支援する。

#### 【状況に応じたコミュニケーション】

円滑なコミュニケーションを行うためには、伝える側、受け取る側の人間関係やその時の状況を的確に把握する力を高めることが重要であることから、集団での遊びを通して場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションをとることができるよう支援する。

#### 【読み書き能力の向上】

発達障害等から読字、書字に困難さを示す子どもに対しては、障害特性に応じ認知訓練も含めた読み書き能力向上のための支援を行う。

### 人間関係・社会性

#### 【ラポール形成と情緒の安定】

子どもとの基本的な信頼関係を形成するため、まずは子どものありのままを受け入れながら、安心できる人間関係を通して子ども自身が自己肯定感を持ち、感情のコントロールをできるよう支援する。

#### 【遊びを通して社会性の発達】

集団遊びを通して協同遊びへと遊びを発展させられるよう適切な介入(子どもの役割分担やルールの設定等)を行うことで社会性の発達を促す。特に社会性の発達を促すことを主目的とした SST グループにおいては、協同課題やルールのある設定遊びを導入する。

#### 【自己の理解と行動の調整】

自分の強みや苦手なことなど、自分の考え方や行動の特徴を理解し、安心できる人間関係のもとで自己肯定感を高め、自身の感情や気持ちをコントロールし状況に応じた行動ができるよう支援する。

#### 【仲間づくりと集団への参加】

小集団療育における設定された集団遊びを通じて共に遊ぶ体験をするとともに、集団参加のための手順やルールを学ぶことで相互理解やお互いを認め合いながら、仲間づくりにつながるような支援を行う。